

幕別区域事後評価第2回第三者委員会議事概要

1. 実施日 平成20年7月3日(木)13:30～17:00

2. 場所 農林水産省第2特別会議室

3. 出席者

第三者委員	井上 京	北海道大学大学院准教授
"	志賀 永一	北海道大学大学院准教授
"	中嶋 康博	東京大学大学院准教授
"	溝口 勝	東京大学大学院教授
"	森 久美子	作家

(敬称略、五十音順)

事務局等 農林水産省農村振興局総務課機構調整室室長及び課長補佐
国土交通省北海道開発局農林水産部事業計画課事業計画推進官
(独)森林総合研究所森林農地整備センター審議役 ほか

4. 議事の概要

(1) 事後評価結果の説明

- ・第1回第三者委員会での指摘事項に対しその対応について事務局より説明。
- ・費用対効果分析結果について事務局より説明。
- ・区域の「事後評価結果(案)」について事務局より説明。

(2) 意見・指摘等

第三者委員会の意見として以下の内容で取りまとめが行われた。

定量的及び定性的な効果分析、現地調査等を総合的に検討した結果、事業の目的は、以下の通り達成されていると考えられる。

農業用道路は利用頻度が高く、圃場への移動や農産物の集出荷を容易にする等、有効に機能していることが確認できた。

この農業用道路は、東西の地域間を結ぶ道路として、地域住民の日常生活や通勤通学の交通の利便性を向上させている等、地域全体の生活基盤、経済基盤の強化にも寄与している。

この農業用道路が、事業着工後7年間という短期間に完成できたことは高く評価できる。

面整備事業(暗渠排水や区画整理等)を行ったことで、畑作4品目に野菜(ながいもやレタス等)を加えた輪作体系が可能となり、農業用道路の効果とあいまって、当地域の農産物の市場評価を高めることに貢献した。

しかしながら、本事業の効果が継続的に発揮されるためには、以下の課題への対応が重要である。

農業用道路の効果を活用しつつ、土地条件の改善を一層進め、農地集積と担い手の育成を図るべきである。

農業労働力不足解消のため、コントラクター以外にも農業実習生受け入れや、農業生産法人等による作業受委託を進めるとともに、大型機械を有効利用する等の取組みが必要である。

ながいもやレタス等の野菜は、安定した販売先を維持・拡大するためにも、「幕別ブランド」としての市場での地位の確立が引き続き求められる。また、農産物の加工販売への取組みも検討課題である。

都市住民との交流を促進するために、パークゴルフや温泉及び美しい田園景観等の観光資源と農作業体験等を組み合わせたファームインやグリーンツーリズム等を振興すべきである。